

## 平成 28 年度「学生による大学改革アイデアコンテスト」の審査結果

教育・学生担当副学長

本コンテストは昨年度まで「福島大学学生論壇賞」の名称で実施していたもので、応募数の低迷（平成 24・25 年にそれぞれ 1 篇、平成 26 年に 10 篇（団体に応募を依頼）、平成 27 年に 3 篇）が続いていました。平成 27 年度から学生生活委員会で検討し、形式や文量、評価指標を明確にするとともに、アイデアの大小を問わない形に変え、本年度から標記のタイトルで実施することになったものです。

その結果、本年度の応募は大学院生 2 篇（うち 1 篇はサークルとしての応募）、学類生 7 篇、計 9 篇の応募となり、一定の効果を得たと考えます。

審査に当たっては、①本学の持続的な発展に資するものであること、②学生の視点によるユニークさ、③実現可能性、④何らかのデータ（アンケート、先進事例など）に基づいていること、⑤内容のわかりやすさ、の 5 つを評価指標として、審査員が評価しました。結果は以下の通りです。

**最優秀賞 該当なし**

**優秀賞** ○行政政策学類（121410074） 今野翔太

「自然災害や感染症等の発生時における休講等の基準について」

○共生システム理工学類（211410037） 大野正太郎「学生ベンチャー創出プラン」

**佳作** ○経済経営学類（131419188） 二村悠果「学生の自己表現能力を高めるためには」

○人間発達文化学類（111320110） 井上和哉

「共通領域英語必修科目の外部試験代替に関する提案」

全体として、学生の視点によるユニークなものが多く、内容もバラエティに富むものとなりました。しかし、審査員の得点合計が 5 割を超えたものがなく、最優秀賞は該当なしとしました。以下に、入賞作品について講評したいと思います。

優秀賞となった行政政策学類 3 年今野翔太さんの「自然災害や感染症等の発生時における休講等の基準について」は、今年度台風や大雪で度々授業で混乱が多発している現状に問題意識を持ち、自然災害や感染症等の発生時に、大学の授業が休講あるいは休校になる公式な基準を定め、ホームページ等で公開する、さらにその措置の周知・通知の即時性をあげようという提案です。関係法令や他大学の事例なども挙げられており、わかりやすく構成されています。異常気象の頻発する中で非常にタイムリーな問題提起ということが出来ます。

同じく優秀賞の共生システム理工学類 3 年大野正太郎さんの「学生ベンチャー創出プラン」は、本学では学生ベンチャー創出の支援がないことから、空き教室を利用して学生用の産学連携用の部屋として学生が自由に活動を行うスペースを確保するというアイデアです。筆者は Web サイトや VR アプリの開発を行っていますが、十分な開発環境がないことから行き詰まっており、このような学生は他学類も含

めて複数いると述べています。実際にどの教室が準備できるのか、どのような責任の下に行うのか様々な課題はありますが、実際に活動している学生ならではの発想として高く評価することができます。

佳作となった経済経営学類 3 年二村悠果さんの「学生の自己表現力を高めるためには」は、本学の学生の表現力の弱さを克服するための提案です。筆者は書く力に目をつけ、1 年生から 3 年生の間の教養演習や専門演習で小論文を書くこととし、教員にフィードバックをもらうことで表現力が高まるのではないかとしています。素直な提案で好感が持てますが、すべての学類の学生がそのように書く機会が少ないのか疑問に残ると、話すことも重要では、という意見が出ました。

同じく佳作に選ばれた人間発達文化学類 4 年の井上和哉さんの「共通領域英語必修科目の外部試験代替に関する提案」は、自身が本学に転入したおり、TOEIC の高いスコアを持っていながらもレベルに合わない授業を受けざるを得なかったという体験が元となっており、共通領域英語科目の必修単位の認定方法に外部試験代替制度を加える、という提案です。現在全学的な教育改革の議論を進めており、これもまたタイムリーな問題提起と言えます。ただ内容が教務上の技術的な問題に留まっているので、本学の英語教育全体に言及してもらえればという意見も出ました。

選外となった作品についても、出された意見を紹介します。

「TOKYO 2030 に向けた福大プライベートブランドのお土産品開発プロジェクト」は、発想自体は面白いが、大学としてどのような商品を開発すべきなのかその内容を提案してほしかったという意見が出ました。「大学改革プロジェクト」は、冬場における通学路の凍結防止策の提案ですが、実現のためには巨額の前算が予想され、実現可能性がきわめて少ないと指摘されました。「確かな調査のために」は学生の投票行動の調査に基づく提案ですが、提案の中身が不明確であり、統計学を学生全員が受講するとどのような改革につながるのか疑問が出されました。「大学猫を考える～ネコ島大学プロジェクト 真の共生をめざして～」は、現在学内に 35 匹生息しているネコをどうするかというサークルからの具体的な提案です。提案の内容は一定理解できますが、全学的な対応をとるのは困難な内容となっています。

「授業アンケートの公表」は、教員、学生の側に授業アンケートを徹底させるという内容の提案ですが、問題を強制力で解決するのではなく、相互に納得のできるアイデアがほしいという意見が出されました。

冒頭に述べたとおり、選外となった作品も含めて、学生の視点によるユニークな提言となり、結果的に今日の学生がどのようなことに問題意識を持っているのか、通常は知ることのできない実像に触れることができたことに満足しています。

本審査結果はホームページ上で公開すると同時に、提案された意見は学内で共有し、また関係部署に検討を依頼するなどの対応をとり、大学改革に生かしていきたいと思えます。

次年度はさらに、多様な視点から大学に対して改革のアイデアを提案してくれることを望みます。